SAKUTOU

イオリ改題 ハーポ 186

15, Nov, 75

Eld; Kou Mukai
354, Kameyama, Himeji, Japan 670

ガリレートンつうしん

姫路市かめの山354
至急の連絡は 向井孝
大阪市阿倍野区旭町2-12-2 泉原文化

お知らせ・石川文庫せいりの日。

11月15日(土)午后一時半〜夜八時頃迄。みんなで夕食をたべ、雑談して解散) 16日(日)午前11時〜夜六時すぎ。(中食にカレーをつくります) 場所。世田谷区八幡山1-15-11。電話302-5933。

石川さん宅への経路がわからない方は、京王線・上北沢エキ(新宿より約25分?)下車(松沢看護学院と八幡小学校前を通り徒歩15分位)電話で問合せて下さい。(15日は上北沢エキで0.45分〜一時のあいだ、はじめて参加の方のために待合せします。)

作業は本ならべと目録清書。ぜひ手伝って下さい!!

非暴力直接行動は無力か

Non violence Direct Action

―闘いの質と方法の転換・その発展のために―〈上〉

Che'pe for trek tagado ne havas forteco n?

(上段左端より)

※オロギーと異る立場で、しかも共通する敵と闘うものに対して"どのように連合するか"より具体的に云えばイデオロギーで排除するのでなく、ひろい視野のなかでの具体的な行為でもって敵味方を判別しなければならぬのではないか。(同じようにNDもその裏返し的立場をとっている問題もある。)

① 非暴力直接行動(以下NDと略称する)はいま現在、革命的な諸勢力はもとより、それを主唱する人たちにおいても〈無力〉と思われている。そして事実ほとんど無力である。だが、その無力さぼくらが戦略戦術的にもNDを見当はずれのところから、暴力と対抗させようとする視点と不可分の問題である。

② ベトナム戦争の北ベトナム・南解放戦線の勝利以来、たとえばそれは〈武装革命〉または〈武装解放〉の勝利として認識されることにより、日本においても〈武装闘争〉がひとつの風潮として、多くの革命派をゆるがせている。そこではNDはしばしば、日和見的市民主義、あるいは腐敗した新旧左翼の合法を出ないものとして蔑視され、ときに敵視されている。

③ だがそのような武闘派も、戦術的にはNDの存在または分野を、どうしても認めざるをえない―ということもある。蔑視し敵視するという点において、それは必要上の利用だけにすぎないかもしれないが―。

つまり、時には後衛として、あるいは支持・防衛・救援などの味方側の勢力として、である。

もちろんNDにとって、このような武闘派の認識や利用主義は、名誉どころか、厳密な対応をするとき屈辱である。〈にもかゝわらず、それにあぐで甘んじているのは、その動きの柔軟性からきた寛容、それにもまして、NDが無力であること、他に方向を見出せないということなのだろう。〉それゆえここで問題なのは、武闘派が、それを絶対に必要とし利用しているにもかゝわらず、戦闘部隊として、戦士としての自己だけで戦線をつくっているような錯誤で、NDをも自己の力とする〈連合の視点〉を殆んど持っていないことだろう。武闘派の多くがおちいっている認見は、NDを云うものたちは、空想主義、観念主義、人道主義・プチブル・インテリの平和主義・市民主義・合法主義・であってその良心的なみぶりの本音の底には、臆病と個人主義的自己保身、いったどうなるかわからぬ裏切りがちらついている"という見くだしである。

武闘派のイデオロギーによれば、それはそうなのであろう。だが"なぜ、お前は武装闘争を闘わぬのか"という糾弾的な自己主張のみもっぱらで、自己のイデ※

④ NDが非暴力直接行動を自己の論理として、武闘をどのような場合も執らない立場を把持する理由のうち、〈暴力にみちびかれた闘争は、かならず自己をも権力主義化する〉〈暴力によってつくり出された革命は、つねに人民に裏切りの革命をもたらしてきた〉という歴史の事実と人民の経験、そこからひき出した教訓にもとずいている。

とするならば、どのような意味でも、自己にとって終局的に、暴力が反革命たらざるをえない、ということにおいて、暴力を執りえない立場と主張がある。

たとえ暴力が、どのように既存権力の打倒に有効であり、もっとも確実で明確な方法であって、いまそれ以外にないーとしても、である。

〈暴力が自己を権力化せしめない最後の歯止めは、権力者(または敵)を打ち倒したしゅん間、自己を抹殺して自己死をとげること以外にない。それがアナキストがテロリストとなったとき、自らえらんだ道であった。だが、組織が、自らを破壊して死滅するということがありえようか。仮にありうるとしたとき、そのような暴力革命のあと、人民に何の準備もない空白に、必ず新しい権力〈敵〉が現れるだろう。これはまるでもとの木阿弥ではないか…〉

⑤ 革命は、もちろん単に政治革命をのみ指すのではないにしても、いま可視的にもつともはっきりとそれ故きわめて尖鋭な姿をとってつき出されているのは政治でありその権力である。つまり政治革命をぬきにしての〈革命〉はない。

そこでぼくにとって、革命の展望は、きわめてきびしい、たった一つの道にかぎられてくる。革命の創出過程においていかにして暴力を避け、暴力を用いないで、なお闘うこと、闘いに勝って権力を打倒することができるか! (裏面下段末尾より五行目へ)

あさひ町から

☮ つとめをやめてから、ナントうかうか、もう仔ケ月目。〈失業風〉がすこしは身にしみてもよい頃なのに、一向にどうということなく、たくわえもない日々を、しどく優雅にくらしている。もっとも、月数万円必要だったお酒は、滅多に飲まなくなった。タバコは気分転換でちょっと出かけていくパチンコで、いつも10ケ位は手許にあって切れることはない。

つとめをやめた当座ー何しろ30年あまり、毎日せっせと出勤したつとめくらしのくせで、自分で進んで退職したのにかゝわらず、何となく心細く不安で〈失業〉という思いがしきりにした。それでついへ失業〉などということを口にしたり、詩で、そのことをかいたりした処、〈お前のは失業ではない。怠業だ〉などとT君に批判された。でも30年もずうっと仕きづけて、朝など、どうしてもゆっくり寝ておれない。毎日が日曜祭日つゞきのようで落付かず「あゝ、もうぼくは出かけてゆくところがないのだ」とガク然とする思いなどからくるものは、ぼくにとって何となく失業の実感だった。

ところがこのごろは〈失業〉なんてどこへやら、日日毎日の朝から晩まで、全く解放されたのんびりさ—明日は明日の風が吹く〈ーということすらも喪失するほどでない〉ー怠業の日々の自由を満喫している。ちょっとやそっとで、このわが生涯最良の日々はやめられぬ。こんなエエことはちょっとないなあーと、我ながらうっとりしているような次第である。

☮ どう云うと、「そんなに遊びくらしていて、一体お金は？」という質問が出るだろう。〈ちなみに仲かぬというのは、お金をカセガ又だけで、遊びくらしているのでは決してない〉 それはまず第一に「出ずるを制すること」に盡きる。〈ケチケチすることではない〉次に、お金をつかわず、つかったのと同じ以上のくらし方をエ夫すること・〈優雅にくらすひけつ〉…といって、いつまでこれがこのままっゞくという訳にもいかぬだろうが、いまぼくは松下幸之助？のように、とてもぜいたくな思いの日々をくらしている。いい友達がたずねてきたり、毎日手紙がたくさん飛びこんできて、にぎやかで楽しいこと、この上なし。

☮ 10月は、一度名古屋へでかけただけで、あずらしく発どずっとサルートンにこもり続けだったので、2日に一頁位の割で〈自由連合組織論ノート〉をかきはじめた。交流塾で配ったもののつゞきという形で。といっても今迄・サルートンなどにすこしずつ書きこちらしたものをすこし書き直しながら、全体としてつないでいくというようなことだが、枚数にしてどの位になるか、毎日ガリをきって四頁分〈一枚裏表〉できたら刷るという仕上げ方ですゝめている。一回の刷り数最低50・そのときどきに批評をうけて、最後にもう一度全部として書き改めたいと思っているので、よんで下さる方があれば、お送りする。ハガキで申込んで下さい。批評下さった方は、それ以后の刷り上りも、またお送りする。

☮ 三一書房の新書で大沢正道氏〈アナキズムと現代〉四八〇円に、ぼくの旧稿『現代暴力論ノート』（約百頁分）が収載されて、いま本屋で発売されている。これは、いずれ書き直して、自由連合組織論と一しょにまとめたい、と思っていたのだが、あっというまにゲラ刷りが来て、もとのままの形で出ることになってしまった。そんな事情だから、読んでもらいたいような、〈旧稿だからあまりすゝめたくないような〉ー〈といって改稿がいっというアテがあるわけじゃなし〉、若干ヘンな気持だが、ともかく改稿のためにも、改めて読んで、批評・感想を送ってもらえたらと思う。ぼくの手許にあれば割引するのだが、ない。本屋で買って下さい。〈これの印税が多分五万円余りはいるだろうと胸算用中。これがはいると、ぼくの今年度の原稿料等の収入は一躍七万五千円余となるのである。〉

☮ Kさんから委託のかたちであずかった富村順一さんの〈最敬礼拒否の思想ー戦犯天皇を裁く〉四八〇円と〈哀号！あきよう！天皇!!ー沖縄で虐殺された朝鮮人と久米島々民の痛恨碑建設のために〉カンパ六〇円をよんだ。この或は偶然ともいうべきことでの、この本との出会いを、ぼくはどう表現してよいかわからない。富村さんと云えば七〇年七月、東京タワーで特別展望台を占拠したタワー事件で知ってはいたものの、そのご中核派の人たちと行動しているように何となく思って、それ以上に何の智識ももたなかった。知らぬということほど、時によっては、身のほど知らぬおそろしい罪を犯していることはない。ぼくは、この本をよんで一晩中、胸がどゞろいてねむれなかった。〈百頁の「…朝鮮人の少年がエレベーターで降りるとき、沖縄マンセイ！朝鮮マンセイ！といく度もくり返していた…」というところを何度かよんで泣きそうになった。

ともかく一度よんでみて下さい！とぼくは、あたりかまわず叫びたいほどだ。天皇制を論じたたくさんの本があるが、ぼくはこの本にまさる感動は決して容易にうけとめられないだろう。〈残部は五冊しか手許にないが、二冊1500円、送料当方持ち〉

☮ 13日頃上京、15・16日は石川文庫の整理をし、17日は沼津の山鹿文庫へ帰路をかねて訪ねるーという予定をたてている。山鹿文庫のセイリは、17日の夕方から18日一ぱい。その日終るようなら、夕刻まで。一人でも二人でも手伝って下さるとありがたい。参加の方は、15日に石川宅へ電話下さると幸いだ。

山鹿文庫は、沼津市内浦三津

☆〈表面、下段左端より続く〉

このようにしてぼくは、いま眼前に提示されたたった一つのもの〈非暴力直接行動〉を取りあげる。どのようにも、これ以外しかないノとすれば、たゞこのNDに賭ける。そこからの出発しかない。〈未完〉